# おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 28 号（2 月 28 日）

サッカー部保護者の皆様、ＯＢの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 練習・遠征で力をつけよ

2 月第一週に東北新人に出場、東北学院と当たり、何もさせてもらえなかった、というのは前号でお伝えした通りですが、その後の活動の経過報告を致します。

東北新人では完敗を喫し、山東サッカー部としても選手個人としても、その活動の見直しが迫られました。サッカーの内容（on the pitch）はもちろんですが、サッカー部の規律（off the pitch）の面でも、大きく反省しなければならなかったからです。昨年も、東北新人で尚志高校に完敗しましたが、昨年と違い、今年の完敗はそもそも大会に合わせてコンディションを上げることができず、最後まで練習での勢いを感じることができないまま、大会に臨んだからです。完敗という点では昨年と同じですが、**気持ちでの一体感もないまま不様に負けた**という点に、今年のチームの問題を感じました。自分が一番責任を負っているということを承知の上で申しますと、東北新人での山形東は「山形県を代表して出場してよいチームではなかった」というのが本音です。

**顧問や主将に断りを入れず勝手に部活を休む部員や、大会前の大事な試合に体調不良や不注意からの怪我で欠場する部員が相次ぎ、一度たりとも満足な形で大会前の練習を行えなかった**というのが 12 月、1 月の活動の実情でした。確かに今年は１月に雪が降り続き、満足な形でグラウンドが使えませんでしたが、雪上サッカーをやるにしてもチームとしての課題、個人的な課題を意識して本当に練習に臨んでいたか、自分の向上心のなさを環境の悪さに転嫁してトレーニング意欲を低下させてはいなかったか、大きく反省させられました。

東北新人中、選手同士でミーティングを重ね、本音でいろいろ意見をぶつけ合ったようです。ミーティングには山東サッカー部の伝統？として顧問は参加しませんので、顧問は選手が各々書いた東北新人反省ノートを読んでその内容を把握しただけですが、せっかく東北新人に出場できたのに一体感を持って試合に臨めなかったことへの不甲斐なさの伝わる内容が多かったです。そして一体感を回復すべく、サッカー部の規律（off the pitch）の確立に向けて、挨拶や荷物の整理整頓、部活を休む時の手続きの確認等、具体的な提言がなされたようです。

多くのチームでは規律の確立は顧問の仕事となることが多いでしょうが、活動の自主性を伝統とする山形東としては、off the pitch のことまで選手自身で深めあえることが、これまでも部のストロング・ポイントでした。**ようやく今年のチームも、諸先輩と同じスタートラインに立ったようです**。東北新人以後は、日々の練習、２度の県外遠征（聖和学園、福島工業）を経て、活動に見違えるような集中力を見せています[1]。**顧問としても現在、選手たちに、サッカー選手としての伸びを感じて、活動できております**。もともと伸び代だらけの

---

[1] 特に遠藤顧問率いる山東Ｂチームは、福島工業遠征にて久しぶりに県外チームとのＢ対決に勝利を収めました（**声を出し合い皆が試合に関わる形で！**）。

（これまで選手として未熟すぎた）山東の選手諸君です。本気になれば、すぐ伸びるのでしょう（少なくとも最初は)。３月１日から１０日間のテスト休みに入りますが、正直な話、もったいなく感じます。

今後も東北新人を経て生まれ変わった山東の活動にご理解とご支援をお願いいたします。